

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	Apple Junior 相模原駅前教室		
○保護者評価実施期間	2026 年 1 月 20 日 ～ 2026 年 2 月 20 日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18 (回答者数)	14
○従業者評価実施期間	2026 年 1 月 20 日 ～ 2026 年 2 月 20 日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10 (回答者数)	10
○事業者向け自己評価表作成日	2026 年 3 月 20 日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	「家族では挑戦させられないことを毎回経験させてくれ、本人も自信をつけている。」 様々な挑戦できる機会を設けることができる環境作り。	お子さまが普段の生活では経験しにくい活動や体験に挑戦できる機会を設けている。 一人ひとりの特性や発達段階に応じて、無理なく挑戦できる環境づくりを行っている。 成功体験を積み重ねられるよう、スモールステップを意識した支援を行っている。	お子さまの興味や関心を踏まえながら、新しい体験や挑戦の機会を充実させる。 一人ひとりの成長に応じて活動内容を工夫し、達成感を得られる支援を継続する。 活動を通じて得られた成功体験や成長の様子を保護者へ積極的に共有する。
2	「日替わりで様々なプログラムを計画していただき、土曜日は外出プログラムもあり充実しています。」 通いやすく、通いたいと思う場所の提供。	日替わりで様々な活動プログラムを実施し、お子さまが楽しみながら参加できる環境づくりを行っている。 工作や運動、調理、外出活動など、多様な体験の機会を提供している。 お子さま一人ひとりの興味や関心に配慮し、「また来たい」と思える活動内容を企画している。	お子さまや保護者の意見を参考にしながら、魅力的なプログラムの企画・運営に努める。 新しい体験や学びにつながる活動を取り入れ、プログラム内容の充実を図る。 外出プログラムや季節行事等を通じて、社会性や自立につながる経験の機会を増やしていく。
3	「活動日には必ず専用アプリでご報告をいただいています。」 利用時の様子等は必ず共有している。	専用アプリ（HUG）を活用し、利用日の活動内容やお子さまの様子を保護者へ共有している。 活動時の様子や成長が伝わるよう、できるだけ具体的な内容の記録を心掛けている。 利用ごとに情報を発信することで、保護者が安心してサービスを利用できるよう努めている。	活動内容だけでなく、個別支援の内容や支援のねらいについても分かりやすくお伝えする。 お子さまの成長や変化がより伝わるよう、記録内容の充実を図る。 写真や具体的なエピソードを活用し、活動の様子をよりイメージしやすくする。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	「メインに利用している教室での面談、とのことで横山台教室では面談をしているが、それが共有されているかは不明。」 他事業所との連携をより図る。	複数の教室を利用している場合、面談内容や支援方針の共有状況が保護者から見えにくいことがある。 教室間で情報共有は行っているものの、その取組が保護者に十分伝わっていない可能性がある。 支援に関する情報の共有方法や連携体制について、より分かりやすく示す必要がある。	面談内容や支援方針について、関係する事業所間で確実に共有できる体制の強化を図る。 教室間での情報共有状況について、保護者にも分かりやすくお伝えする。 定期的な情報交換やケース共有を実施し、一貫した支援につなげる。
2	「あまり説明はないが、不満もない。」 親御様が安心して通うことのできる教室作りを行う。	現在の支援や情報共有に大きな不満はないものの、事業所の取組や支援内容について十分に伝わっていない場合がある。 保護者によって求める情報量や説明の頻度が異なるため、ニーズに応じた情報提供が必要である。 安心して利用いただくためには、継続的なコミュニケーションと情報発信が重要である。	HUGや送迎時のやり取りを通じて、お子さまの様子や支援内容を分かりやすくお伝えする。 保護者が相談しやすい環境づくりを継続し、気軽にご意見やご質問をいただける関係づくりに努める。 面談や情報共有の機会を活用し、安心して利用いただけるよう丁寧な説明を行う。
3	「経過記録は書かれているが、職員が全員でその記録内容を読んで振り返る機会は少ない。個々に読んで把握している状況のため、周知度にばらつきがあると感じる。」 職員同士でばらつきが起きないように対策していく。	経過記録は作成・共有されているものの、職員全員で内容を確認し振り返る機会が十分に確保できていない。 個々で記録を確認することが中心となっており、理解度や認識に差が生じる可能性がある。 支援に関する情報共有の方法によっては、重要な情報の周知にばらつきが生じる場合がある。	定期的にケース会議やミーティングを実施し、経過記録の内容を職員間で共有する機会を設ける。 支援上の重要事項や留意点について、職員全員が共通認識を持てるよう情報共有の仕組みを強化する。 記録の確認状況を把握し、必要な情報が確実に周知される体制づくりを進める。